

## 先生方が指導力を向上させるための 校内研修の充実

いじめは、どの児童生徒にも、どの学校でも起こり得る問題であり、人間として決して許されないことです。いじめの兆候をいち早く把握し、迅速に組織的な対応をする必要があります。

また、いじめが解決したと見られる場合でも、教職員の気付かないところでいじめが続くケースもあることを認識し、そのときの指導で解決したと即断することなく、継続して十分な注意を払い、折に触れて必要な指導を行うことが大切です。

そのためには、校内研修を充実させ、全教職員がいじめに関する理解等を深めることが重要です。

《職員研修の例》

### ○ いじめの未然防止に係る校内研修会

- 1 校長あいさつ（5分程度）
- 2 児童生徒の状況について（15分程度）
- 3 小グループでの話し合い（20分程度）
- 4 グループの発表と課題等の整理（15分程度）
- 5 質疑や意見交換（20分程度）
- 6 指導助言（10分程度）
- 7 おわりの言葉（5分程度）



- ※1 「いじめに関する校内研修ツール」を用いる場合は、上記の研修に、「自己点検シート」や「点検内容の解説」、「研修会アンケート」等を活用することができます。  
（参考：平成21年6月 国立教育政策研究所「いじめに関する校内研修ツール」）
- ※2 そのほかの研修会の例
- ・アンケート調査についての研修会（分析の仕方や活用の仕方）  
（参考：平成21年6月 国立教育政策研究所「いじめに関する校内研修ツール」）
  - ・ネット上のいじめに関する研修会  
（参考：平成24年3月 文部科学省「学校ネットパトロールに関する取組事例・資料集」）
  - ・自殺予防に関する研修会  
（参考：平成21年3月 文部科学省「教師が知っておきたい 子どもの自殺予防」）

《参考》「平成23年度中に、いじめの問題に関する校内研修を行ったか」

（複数回答）%

質問項目	小学校		中学校	
	宮城県	全国	宮城県	全国
いじめに特化した研修を行った	5.0	11.0	4.3	9.5
生徒指導等の研修として、いじめの問題にも触れて研修した	67.8	85.3	64.3	85.4
いじめに関する研修を行っていない	28.8	8.0	32.9	9.7

（「平成24年度いじめの問題に関する児童生徒の実態把握に係る緊急調査」H24.11文部科学省公表）

## いじめに関する Q&A

**Q1** 携帯電話やパソコンを使った、いわゆる「ネットいじめ」のようなタイプのいじめには、どのような方策が効果的ですか。

**A1**：具体的な方策として、フィルタリングの普及啓発、情報モラル教育の推進、インターネット利用に関するモラルや規範意識の向上等を図るための生徒指導の推進、児童生徒が「ネット上のいじめ」等に巻き込まれていないか教育委員会等が監視を行う「学校ネットパトロール」の取組があります。

いわゆる学校非公式サイト（学校裏サイト）、プロフィールサイト、ブログ等に誹謗中傷の書き込み等が行われる「ネット上のいじめ」や詐欺等の犯罪の被害等、インターネット上のトラブルに巻き込まれる可能性が増しており、教育委員会や学校が、警察等の関係機関と連携して、対策を講じる必要があります。

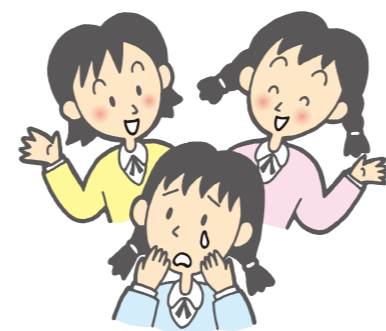


**Q2** 自分の学校には、そんなに深刻な問題があるとは思えないのですが、未然防止に関する取組を行っていく意味はありますか。

**A2**：何よりも、いじめはどの児童生徒にも、どの学校でも起こり得る問題であるという認識に立つことが大切です。

目の前にいる児童生徒の状態だけではなく、隣の学級や他の学年の状況も把握することが必要です。また、小学校や中学校、高等学校へと進む中で児童生徒の成長や変化を視野に入れ、現在の段階でどのように生徒指導を行っていくか学校全体で考えていくことが大切です。

こうした取組を行うことで、全職員が全校の児童生徒の現状を理解することができるようになり、「いじめが起きれば気がつくはず」、「平日頃からよく指導しているので大丈夫」などの安易な認識を変えることができるようになります。



《主な参考資料》

- ・平成24年2月以降国立教育政策研究所「生徒指導リーフNo.1～No.9」
- ・平成23年6月国立教育政策研究所「子どもの社会性が育つ『異年齢の交流活動』」
- ・平成22年6月国立教育政策研究所「問題事象の未然防止に向けた生徒指導の取り組み方」
- ・平成22年3月文部科学省「生徒指導提要」

## いじめの未然防止への取組

# いじめを生まない 学校づくり のために

いじめを減らすためには、「いじめを生まない」という未然防止の発想に立った取組が不可欠です。

いじめの未然防止には、些細な行為が深刻ないじめへとつながらない潤いに満ちた風土をつくりだす「居場所づくり」や、児童生徒にいじめは絶対にしないという気持ちを育てる「絆づくり」の取組が必要です。

いじめの未然防止に関する認識を高め、学校全体で取り組むことができるようにするために、この資料を作成しました。

宮城県教育委員会  
平成25年1月



# 先生方と子どもたちが一つになって、「居場所づくり」と「絆づくり」を推進



全校一丸となって1時間1時間の授業や一つ一つの体験活動を大切に、児童生徒の「自己有用感」を高めていくことが、いじめ防止の鍵になります。そのため、どの児童生徒でもいじめにかかわる可能性があるという現状を踏まえ、授業や行事等の中で、児童生徒が落ち着ける場所をつくり出すこと(居場所づくり)が、いじめ発生リスクを抑えます。さらに、多くの児童生徒がいじめを行った体験があるという事実を受け止め、すべての児童生徒が活躍できる場面をつくり出すこと(絆づくり)によって、児童生徒をいじめに向かわせないようにすることが重要です。

## 生徒指導の三機能

<b>自己存在感</b> ・個に応じた指導と、意欲を引き出す指導の工夫 ・活躍の場がある授業	<b>共感的な人間関係</b> ・互いに認め合う場の設定	<b>自己決定</b> ・主体的に考えたり、活動する場の設定 ・課題の設定や解決方法を、自ら選択する場の設定
--	---------------------------------	--

## 魅力ある授業づくり

魅力ある授業にするために、生徒指導の三機能を生かして、互いのよさを認め合ったり、協力し合ったりして、児童生徒一人一人が安心して取り組むことができるようにすることが大切です。

### 生徒指導の三機能を生かした授業づくりの例

	学習活動(学習の流れ)	生徒指導の三機能を生かした教師の指導
導入	・本時の課題をとらえる。	・興味・関心に応じて、学習課題の設定の仕方を工夫する。(自己存在感)
	・〇〇を求める方法について見通しをもつ。	・主体的な学びになるよう資料や教材提示の方法を工夫するほか、活動する場を設定する。(自己決定)
展開	・自力解決をする。	・児童生徒が自力解決を図るための時間を十分に保障し、思考場面や観察場面で、考えたり、観たりする視点を示す。(自己決定) ・学習課題や学習方法、学習形態等を選択できるようにする。(自己決定)
	・ペアで考えを発表し合う。	・互いの考え方などを表現し合う場を設定する。(共感的な人間関係)
終末	・全体で考えを発表し合う。	・児童生徒の実態を把握し、授業のどの場面でもどの児童生徒を生かすかなど、個に応じた指導を行う。(自己存在感) ・互いに認め合う場を設定する。(共感的な人間関係) ・つづやき等を積極的に取り上げ、発表の機会を与える。(自己存在感)
	・本時の学習をまとめる。	・努力や成果を認める。(共感的な人間関係) ・相互評価を取り入れ、互いのよさを認め合うことができるようにする。(共感的な人間関係)
	・次時の学習内容を知る。	・興味・関心を引き出し、意欲を高める指導や支援を行う。(自己存在感)

## 体験活動の充実

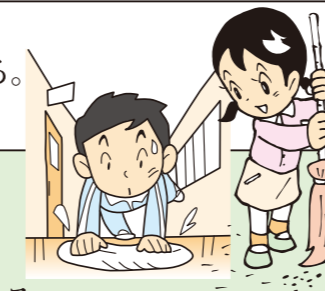
### 異年齢集団のかかわり(小学校・縦割り清掃活動)の例

- ・上学年には、下学年に対する思いやりの気持ちをもたせるとともに、主体的に望ましい人間関係づくりに取り組ませる。
- ・下学年には、上学年に対する感謝や尊敬の気持ちを育てる。

時期	活動場面	活動内容
○月○日	学級活動	これまでの縦割り活動を振り返り、めあてをもつ。
○月○日	放課後	縦割りリーダー会を行う(月1回程度、担当教師との打合せも含む)。
○月○日	児童会活動等	縦割り班の顔合わせを行う。
○月○日	清掃の時間(週1回程度)	事前の分担に従って、縦割り班ごとに清掃を行う。通常の分担以外にも、除草や落ち葉拾い活動、地域の公共施設の清掃等にも取り組む。
○月○日	児童集会等	5年生が中心になり、6年生への感謝の会を行う(すべての学年に出番があるような役割分担を行う)。

#### (教師の一工夫)

- ・朝の会での読み聞かせや合同給食会等、他の場面でも交流会を設定する。
- ・自己評価や相互評価を行わせ、次の活動への意欲を高めるようにする。



### 地域とのかかわり(小学校・栽培活動)の例

- ・祖父母や地域の方々との交流を通して、感謝や尊敬の気持ちをもたせる。

時期	活動場面	活動内容
○月○日	朝の活動(放課後)	栽培計画を立てる。
○月○日	学級活動等	祖父母や地域の方々を講師にし、種まき等を行う。
○月○日	朝の活動(放課後)	水やり、除草等の世話をする。収穫を行う。
○月○日	学級活動、家庭科や生活科の授業等	収穫した野菜等を調理する。収穫祭を行う。
○月○日	学級活動等	一連の活動の振り返りを行う。

#### (教師の一工夫)

- ・地域の人材マップの再構築を行う。
- ・収穫した野菜やお礼の手紙等を、地域の施設やお世話になっている人たちに届ける場を設定する。

### 同年齢集団のかかわり(中学校・合唱コンクール)の例

- ・互いの意見や考えを聞き、多様な考えを認め合える集団づくりを行う。
- ・一つのことを創り上げる活動を通して、集団への所属感を高める。

時期	活動場面	活動内容
○月○日	学級活動等	選曲する。前年度入賞学年のVTRを視聴する。
○月○日	学級活動	学級のスローガンを決定する。
○月○日	放課後等	スローガンを作成し、教室内に掲示する。
○月○日	授業	全体練習やパート練習を行う。
○月○日	放課後等	練習中のVTRや録音で、成果や課題を確かめ合う。
○月○日	校内合唱コンクール	他の学年や学級の発表を聴き合う。
○月○日	学級活動等	合唱コンクールのVTRを視聴し、感想を書く。

#### (教師の一工夫)

- ・VTRなどの記録を活用して、活動を振り返らせる機会を設定する。
- ・学習参観日や小学生による学校訪問の際などに、披露する機会を設定する。

### 小学校と中学校のかかわり(小学校6年生の中学校一日入学)の例

〈小学校の例〉・中学校生活への期待を高める。

時期	活動場面	活動内容
○月○日	学級活動	中学校進学に向けての期待や不安について話し合う。
○月○日	帰りの会、放課後	質問事項などを整理し、中学校に事前に届ける。
○月○日	中学校一日入学	一日入学(授業参観、部活動見学等)に参加する。
○月○日	学級活動等	一日入学に参加しての感想を書き、発表し合う。

#### (教師の一工夫)

- ・中学校生活にあこがれをもたせるような助言を行う。

〈中学校の例〉・小学生が中学校生活にあこがれの気持ちがあるような活動ができるよう、生徒の自発的・自治的な活動を促す。

時期	活動場面	活動内容
○月○日	学級活動	自分たちが中学校入学時にもっていた期待や不安について考え、一日入学の準備をする。
○月○日	中学校一日入学	授業公開や部活動体験会、校歌披露等を行う。
○月○日	帰りの会等	一日入学の振り返りを行う。

#### (教師の一工夫)

- ・中学校入学時を振り返る場面を大切に、相手の立場に立った活動が考えられるよう助言する。